

今年の米は良く取れたけど品質が・・・

10月28日の段階で農林水産省から公表された2016年産米の全国作況指数は103、全国の10a当たり予想収量は前年産に比べ13kgの増の544kgとなりました。作況指数では北陸地区がトップの108となり、他の地区は101～103と良いようです。収量では北陸以西の地区が軒並み増加しており、前年と比べて約20kg程度増えているようです。

しかし、今年の米は収量が多くてもくず米が多かったり、品質が悪かったりする話がよくありました。また、例年よりも収量が1俵少ないと言う地域もあるようですが、実際の所はどうなのでしょう？

1. 今年の1等米比率と格落ち理由

9月30日の段階で農林水産省から公表された、うるち玄米の1等米比率を見てみると全国平均で83.9%となっています。一見すると良さそうに見えますが、東海以西は1等米比率が全国平均を下回っており、品質低下していることがよくわかります。

表-1 各地域のうるち米1等米比率

(農林水産省資料より抜粋)

※山梨県、長野県、静岡県は関東に含み、新潟県は北陸に含む

2等以下に格付けされた主な理由は、心白及び腹白29.5%、着色粒(カメムシ類)22.7%、整粒不足17.6%、充実度13.1%となっています。昨年と比較すると主な理由のうち、着色粒以外の項目が上がっています。

この原因としては、関東以西は6月の日照不足、9月の長雨によって、分けつ発生が遅れ、それに伴い遅れ穂も多くなりました。さらに登熟期に日照不足で登熟不良となり、粒張りが悪くなり、心白などの乳白米が多発した結果、等級が悪くなったと考えられます。この傾向は中晩生品種で顕著です。

また、9月の雨続きは全国に影響を及ぼし、適期に刈取が出来ず、穂発芽や胴割れなど品質低下を招いたようです。

今年は、収量よりも品質低下が気になった年になったのではないのでしょうか？

	1等	2等	3等	規格外
全国	83.9%	14.3%	1.2%	0.6%
北海道	89.1%	6.1%	0.4%	4.4%
東北	93.7%	5.4%	0.6%	0.3%
関東	93.1%	6.4%	0.4%	0.1%
北陸	88.3%	10.8%	0.5%	0.3%
東海	59.1%	39.3%	1.3%	0.3%
近畿	73.2%	24.1%	2.3%	0.4%
中四国	61.4%	34.2%	3.7%	0.7%
九州	43.0%	47.7%	7.9%	1.4%
沖縄	56.9%	26.7%	12.6%	3.8%

2. 天候に左右されにくいイネを目指して

近年は予期せぬ天候が発生し、イネ作りが難しくなっているように感じます。しかし、実際はコストの問題や面倒だという理由で土壌改良材や元肥マグホスなどの土づくりを省略していることが主な原因です。高収量を維持している生産者の話を聞くと、しっかり土作りをしている方が多いです。肥料と違ってすぐに結果は出ませんが、表-2を参考に土づくりに取り組んで、天候に左右されにくいイネを目指しましょう！

表-2 天候に左右されにくいイネにするための施肥管理

土作り	ガスわき防止	タキアーゼ・S 100kg/10a + 秋起こし
	ケイ酸補給	タキグリーン 100kg/10a + 秋起こし
	秋落ち防止	エフグリーン 100kg/10a + 秋起こし
	地力の向上	ネガアップ 40～60kg/10a + 秋起こし
活着・分けつの発生促進	初期分けつによる有効茎確保	元肥にマグホス 40～60kg/10a 施肥
田植後の生育停滞改善	不足しやすいカリとリン酸で発根促進	生育停滞後、すぐに2～3日落水し、カスタム 20kg/10a 施肥

ホームページ <http://www.takichem.co.jp/> メールアドレス aguri@takichem.co.jp

多木化学(株)アグリサービス室 財家脩